



Title	apenas : 否定性に関わるいくつかの特徴(1)
Author(s)	出口, 厚実
Citation	Estudios Hispánicos. 1999, 23, p. 31-40
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/93836
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

apenas : 否定性に関わるいくつかの特徴 (1)

出 口 厚 実

1.1. apenas は否定語か

副詞 *apenas* がいわゆる否定語 (*nunca, ninguno, nada, nadie, ...etc.*) の1つなのかどうかについては、これまでそれほど関心が払われてこなかったように見受けられる。この副詞が、特に *apenas* に限らなくても副詞全般がそうなのであるが、統語論上、注目を引く“派手な”特徴を示さないことが1つの理由であろう。もう1つは「否定語」の範囲と定義に関してスペイン語文法研究者の間に明確な共通認識が存在しない点によると考えられる。

否定語のより正確な定義付けに近づくためにも、*apenas* 自体を詳しく考察し、その統語的諸特性を規定することが有益なはずであると信じるものの、ここではこの問題に立ち入らない。ただし、「少なくとも意味組成のどこかに何らかの否定的要素を含んだ語」のような広義の拡散した解釈ではなく、一定の統語的振る舞いで特徴づけられる限られた語の集合ととらえておく。

apenas を「否定語」と明示的に見なさない、あるいは「否定語」に含めることを不適当とする論議がこれまで提出されたかどうかを筆者は知らない。一般の多くの総合文法書や概説書はこの点に沈黙している⁽¹⁾。若干であるが、この副詞が「否定語」の中に含まれると断定するのも見られる。例えば、白水社「現代スペイン語辞典」は、その見出し語項目及び付録文法概要で *apenas* 全体を否定語として扱っている。また、定評ある参照文法の Butt & Benjamin(1994:327)でも同様な取り扱いが見られる。

紙幅の関係で本稿は *apenas* のすべての用法を対象にすることは出来ない。一見、否定語のような外観をもちながら完全な否定語ともみなせない、言い換えれば否定語・肯定語両用に曖昧にみえる用法での、“否定”との関わり方を調べてみたい。準否定語、“実質的な”否定語としての側面を有すことは事実なのであるが、現代スペイン語でのこのような用いられ方が *apenas* の各語義とどのように意味的に統合されるかという興味深い課題

に挑戦するためにも、まず、この副詞の中核である典型的な用法におけるその否定性あるいは「疑似」否定性に焦点を当ててみたい。

1.2. apenas の諸用法

apenas の使用実態を観察するために利用したデータは、範囲を限定しない現代スペイン語の散文資料群と、新聞「El Mundo」誌 1996年 enero-junio 6ヶ月分の記事の2大別される。前者はスペイン・中南米を問わず文学創作作品、評論、新聞・雑誌記事など、メモとして記録してあったものや新たに検索したもの等、テキスト種類、レジスタ、時期や出典が一定しないバラバラに採取した事例の集合である。後者はスペインのこの新聞の半年分の記事をまとめたCD-ROM版から取り出した用例である。それぞれから得られたこの副詞の事例は 1,509例, 1,775例 で、総数 3,284の使用例を検討した。

語義・用法のうち考察の対象になる範囲を明確にする必要があるので、副詞 *apenas* に見られる現代語としての主な用法を概観しておく。ここでは次の6タイプ（ローマ数字で示した）に区別するが、全般的な統語あるいは意味機能上の特徴を体系化しようとする意図で十分練り上げたものでなく、単に今後の作業を進める都合を考慮して設けた分類基準である。

I)

(1) Faltaban tres días para el de la boda. Augusto salió de casa de su novia pensativo. *Apenas* pudo dormir aquella noche. < NB(1993:197)

II) A

(2) Se casó con *apenas* 20 años y enseguida tuvo dos hijas. < LV(1998)

II) B

(3) No tenía dificultad en conseguir mujeres, pero nunca se sentía suficientemente amado, el efecto que recibía era *apenas* un reflejo deslucido de la pasión total en que se consumía. < PI(1991:107)

III) apenas + adj, pp.

(4) Con voz *apenas* perceptible respondió: -Yo no sé. < CA(1993:17)

IV) sin との共起

(5) ...(lo mejor del punk era que uno podía actuar e incluso grabar sin *apenas* saber tocar un instrumento ni casi cantar). < MN(1996/03/20:CAMPUS)

V) apenas si

(6) Mas estos trenes discurrían cachazudamente y su paso, en la oscuridad del agujero, *apenas si* les producía ya emoción alguna. < CM(1991:145)

VI) conjuntiva/temporal

(7) *Apenas* descendió del avión, el Papa besó la tierra que le ofrecieron en un cuenco dos niños, como es ya tradicional desde que le operaron del fémur. < MN (1996/02/08: Sociedad)

動詞句内に現れて、例文(1)におけるように「ほとんど…ない」に相当する準否定的な基本語義を示すのがタイプIである。第2の類型では、A, Bに下位区分されているが共に動詞句や文に否定作用を行使しないと考えられる用法である。「わずか、ただの…」と訳される場合が多いケースである。亜種 A は数値による量化を限定しているのに対し、B では名詞句への副詞的修飾と見なされる。タイプIIIの機能は特にIと変わる点がないが、形容詞・過去分詞に前置されて形容詞句内部にある点異なる。

否定要素を内蔵した前置詞 *sin* と *apenas* の共存及びそれらの語順に関しては興味深い現象が見られることから、これを別枠IVに扱うことにした。連句 *apenas si* は第1のタイプと互換性があるが、否定辞との相互作用については統語的性質に違いがあるようなので他から区分する。タイプVIは接続詞的機能をもつ *apenas* の用法を含む。「…するや否や」「…するとすぐに」「…するかしないうちに」の訳語に対応するが、相関的に出現する語句の種類、主文との位置関係などにより、いくつかのサブタイプにさらに細分類可能である。また純副詞的 *apenas* との境界線上の用例も発見される。

1.3. タイプ別の頻度

上述の分類基準に従って収集した例文の総数 3,284 のタイプについて頻度を集計すると次のようになる。

表 1

type	I	IIA	IIB	III	IV	V	VI	?	合計
頻度	1294	1077	163	190	140	123	291	6	3284

なお、分類未詳欄 (?) に該当するのは、一見形容詞として働いている

ような外観を呈する、例えば、con *apenas* experiencia profesional（ごく僅かな職業経験しか持たない）における *apenas* の用いられ方である。そのほか、新たな分類項目を新設する方が適切かとも思われるのに、un poco や más のような副詞を限量するケースがある。これらは上表の集計ではIIIタイプと見なされている。ただ、連鎖 no ... *apenas* más que の例はタイプIに数えた。

第II種類の *apenas* は「肯定的な」あるいは、否定から遠ざかった用法と位置づけてよいであろう。タイプVIも基本的に“否定”のキャリアとは考えられない。残るI,III,IV,Vの類型において、その否定あるいは準否定的価値の濃淡が論点となり得るが、本稿では全体の4割弱を占め、かつもっとも否定辞 no との接点に近い、動詞句内部の典型的用法のタイプIに焦点を絞り論を進める。

2. 否定的な *apenas* vs 肯定的な *apenas* ?

副詞 *apenas* を含むコンテクストは多くの場合、*apenas* に固有に内在するする否定的側面を表出するために用いられたと考えるのが自然である。

(8) *Apénas* pudo dormir aquella noche. 「彼はその晩ほとんど眠れなかった」 < NB(1993:197)

確かに、夜、人は眠るのが通常であるからそれに鋭く対立する「睡眠しなかった」がもっとも目立つ情報価値として受け止められるだろう。が、眠ったか眠らなかったかの2値素性で言うならば明らかに、(8)は「肯定」の“眠った”部類に入るのもまた確かだろう。すなわち、弱い程度の否定とか断定的な（100パーセント）否定であるとか、「否定」自体は本質的に量化されるものではないと考える。ただ、語用論的に評価される機能が否定に近いものか、それとも実質的な否定ではなくむしろ、微量、あるいは多少の「肯定」価値を認めている場合との微妙な差は存在するように思われる。

(9) Francisco atacó la entrada con su herramienta. Tenía escasa habilidad para los trabajos rudos, *apénas* sabía usar el pico y comprendió que la labor sería más larga de lo previsto. < AS(1992:185) 「フランシスコは持ってきた道具で入り口を壊しにかかった。荒々しい仕事は不得手だった。ツルハシの使い方をほとんど知らなかったので、予定より作業が長引くだろうと

いうことがわかった」

主人公は不能率であったが土を掘り進んでいて、ツルハシを辛うじて使いこなしていた状況である。つまり、道具の使い方がわからず掘削を諦めたことを含意させる文脈ではない。従ってこのケースでは論理的に否定でないばかりか、聞き手に対して肯定的解釈をとるよう示唆すると言えるかもしれない。

さらに、次の例を見てみよう。

(10) La casa, como intuía, carecía de luz y *apenas* pude seguir con el reflejo de la luna. Tardé un tiempo en acceder al salón (había un solo pasillo, largo y estrecho, que se bifurcaba casi al final), < JE(1998)

「その家は、予想していたように、明かりがなく月明かりの反射でもって辛うじて前へ進むことができた。広間に到達するのにしばらく時間がかかった。ただ1つ、ほとんど突き当たりで分岐する長く狭い廊下があった」

不気味な家に侵入する場面の描写であるが、もし、ほとんど前進することが出来なかったのならば、後続の筋の展開と矛盾する。そこで、ここでは、むしろ、時間がかかったにせよ広間に達したのであるから、否定的読みは排除されなければならない。実際、上の文脈で「ほとんど…できなかった」と訳出するのは奇妙であろう。

apenas のみに注目して、そのコンテキストから上述のような「否定」の温度差を感觸風に述べることは、全く見当はずれでないとしてもやはり客観性に欠ける。そこで、*apenas* 自身がどのように解釈されるかではなく、この語を周囲の統語構造がどのように見なしているかという視点から間接的にその意味を明確にしていくのが本稿の目的である。

3. 私的周囲における *apenas*

apenas を取り巻く周囲の環境条件を考察する上で、私的周囲と公的周囲を区別する。前者は *apenas* が数量化の作用を及ぼすことのできる範囲（スコープもしくは *ámbito* と呼んでもいいだろう）を指して用いる。今、話題にしている用法の *apenas* では、これ自身が含まれる節とそれが支配する従属節に相当する。いわば、内なるメンバーがこの副詞をどのように、特に肯定か否定かに関して、処遇しあるいはそれに対して反応しているの

かを本節で確かめてみたい。

3.1. 対動詞位置と否定要求

まず、文内での否定辞 *no* との共起及び対動詞位置がいわゆる否定語と同じような特徴を示すかどうかという点である。

- (11) a. José *apenas* sabía el latín.
 b. José sabía *apenas* el latín.
 c. José no sabía *apenas* el latín.
 d. José sabía el latín *apenas*.
 e. José no sabía el latín *apenas*.

文(11a)は少なくとも2通りに曖昧であるが、ここでは非評価的解釈の場合のみを取り上げる⁽²⁾。すなわち、「ホセはほとんどラテン語を知らなかった」の意で用いられていると仮定される。注目すべきなのは、b.,d.もまた容認される事実である。b. に較べるとd.はやや有標的であるが排除されないし、b.は全く文法上問題ないとされる。もし、副詞 *apenas* が典型的な否定語であるならば、*nunca*, *jamás* などがそうであるように、動詞後の位置にありながら動詞が *no* で否定されないこの種の構造は認められないはずであろう。

採取した用例で *apenas* と *no* の語順関係によって分類した類型別にその出現度数を調べると次の結果になった。

表2

語順と否定辞の有無	例文タイプ	頻 度
<i>apenas</i> V	11a	1,128 (87.2%)
V <i>apenas</i>	11b, 11d	68 (5.3%)
neg ⁽³⁾ V <i>apenas</i>	11c, 11e	56 (4.3%)
<i>apenas</i> V neg		42 (3.2%)
合計		1,294 (100.0%)

上表の統語パタンの分布で意外なのは *neg* V *apenas* (11c,e),(13)の例が非常に少ない点である。また、*apenas* が動詞に先行する *apenas* V タイプの頻度と圧倒的な差があるのに気づくと共に、「否定語」の資格と矛盾する単独動詞後位の V *apenas*, v.gr. (12)形式よりもさえ発見数が少ないので

ある。

(12) Le hicieron muchas preguntas y él las contestaba *apenas*. < EC(1997)

(13) Tómelas light, no tienen *apenas* calorías. < PS(1992: 74)

このことは *apenas* が他の否定語の大きな特性である「否定作用域を自ら形成するか、あるいは否定作用域においてしか機能しない」の後段部分で、大きく離反していることを示している。*apenas* は否定作用域を必ずしも必須条件としないだけでなく、明示的に否定辞・否定語の支配下に現れることが可能であったとしても、その比率は全体のわずか 4% 強に過ぎないことがわかる。

3.2. *apenas*と否定語・不定語

副詞 *apenas* に先行される動詞は *nada, nadie, ninguno* などの否定語と共に量化の末端に近いことを示すほか、対応の不定語, *algo, alguien, alguno* とでも同等な機能を果たすことができる。

(14) a. *Apenas* puedo decidir *nada*.

b. *Apenas* puedo decidir *algo*.

動詞前位置に否定語が先行し、その後に *apenas* が続く(15c)に類する場合も成り立つが、これは(15a)が二次的な語順変更を被った変種とされるだろう。

(15) a. Gesticula mucho y *apenas* dice *nada*.

b. Gesticula mucho y *apenas* dice *algo*.

c. Gesticula mucho y *nada* *apenas* dice.

採取した実例(16)-(18)で *apenas* と呼応して否定語の生起が認められる。

(16) *Apenas* sabía *nada* de ellos hacía más de un año; < PM(1998)

(17) De la histórica ceremonia *apenas* recuerda *nadie* qué dijo Clinton o en qué se detuvo Hussein de Jordania. < MN(1996/04/14:CRONICA)

(18) Sin restos aparentes de la lesión en la ingle que padecía en los primeros días del torneo, Seles *apenas* se cansa ante *ninguna* de sus rivales.

< MN(1996/01/22: DEPORTES)

一方、同様な環境であるが次の諸例には不定語が対応して用いられていることがわかる。これらでは、*apenas* は動詞句に否定作用を及ぼしたとは断定できない。

(19) *Apenas* quedó en los montes o en los bosques alguna pareja recalci-trante. < CM(1991:167)

(20) Si no se produjo una catástrofe fue porque a la hora del atentado, poco antes de las once de la noche, apenas circulaba *alguno* de los 30.000 vehículos que pasan por el puente cada día. < MN(1996/04/26: INTERNACIONAL)

(21) Las leyes internacionales obligan a las autoridades a impedir el tráfico de drogas, pero una vez que han cruzado sus fronteras, la Policía *apenas* hace *algo* por impedir su venta. < MN(1996/04/29: SOCIEDAD)

3.3. *apenas* と *sino*, más que

一定の解釈で否定環境を要求する *activador (inductor) negativo* 語句と *apenas* のマッチを用いて後者の「否定的意味」をテストすることができる。例えば, *sino* は典型的に否定表現内での否定域を解除する働きをもつ。A *sino* B において, 前駆部の A は否定表現でなければならない。従って, (22)(23)で, 一見, *apenas* は「否定」作用を発揮しているように見える⁽⁴⁾。

(22) *Apenas* hablaban ya *sino* por señas y ... < CM(1991: 88) 「ほとんど彼らは身振り手振りでしか話さなかった」

(23) -La hormiga, ¡bah!, uno de los animales más hipócritas! *Apenas* hace *sino* pasearse y hacernos creer que trabaja. < NB(1993: 56) 「(蟻は) ほとんど散歩しかしないで働いているように信じさせている」

また, *apenas* は後続の *más que* と組んで *no más ... que* の近似値を表すことが出来る。

(24) ..., respaldo la expansión exterior de la boina, prenda de cabeza española donde la haya, que ahora *apenas* usan *más que* Carmen Martín Gaité y algunas veces Javier Gurruchaga. < EP(1998/687) 「今ではほとんど Carmen Martin Gaité しか用いない」

(25) *Apenas* me queda tiempo *más que* para escribir la columna.
< MN(1996/05/19: ULTIMA) 「私にはほとんどコラムを書く時間しかない」
もちろん, この環境に許容されることが直ちに「否定」と等価であることを意味しないが, 少なくとも「肯定」よりも「否定」並に扱われていることを証明する。

3.4. その他の否定対極表現

apenas は典型的に否定文脈に現れる en toda la noche 「一晩中…ない」, palabra 「一言も…ない」, bocado 「一口も…ない」 など, と共起することがわかる。

(26) *Apenas* pude cerrar los ojos en toda la noche. < PF(s.f)

(27) Después de las primeras semanas *apenas* pronunció palabra salvo cuando los traumatismos la hacían delirar. < AR(1996)

(28) *Apenas* probó bocado. < DS(1996: 110)

3.5. apenas と接続詞

apenas の影響を受ける私的なスコープで等位接続される要素が ni で繋がれるのか y で繋がれるのかも興味深い。次の 2 例はいずれも動詞句が apenas で修飾されていて, かつ動詞の直接目的語に 2 つの名詞句が並列されている。すなわち, apenas (... & ...) の図式で, コネクタとして (29) では ni が, (30) では y が用いられている。

(29) ... se mostró contrario a que la edad máxima de las vaquillas sea de dos años, «porque tan pequeñas *apenas tienen* cuernos ni fuerza suficiente para aguantar 20 minutos en la plaza, < MN(1996/02/20: MADRID)

(30) La exposición fue mucho más rápida y breve de lo que habíamos previsto, pues *apenas* hubo preguntas e interrupciones. < FM(1998)

文(31)は主語に並列名詞句を含み, 後部要素のみが apenas で制限されるが, 前部は否定される (neg) & (apenas ...) のケースである。この例では ni が出現しているが, 動詞が no に先行されているために要求されたとの見方も可能である。apenas が ni の直接の引き金になったのではなく, neg A ni B の緩和として添加されたのだとしたら, apenas は否定環境への寄生的親和力をもつが, 自身は否定パワーを照射していないことになる。

(31) Era la plaza un remanso de quietud donde siempre jugaban algunos niños, pues no circulaban por allí *tranvías* ni *apenas coches*,...

< NB(1993: 148) 「そこは電車が通っていなかったし, 車もほとんど通っていなかった」

なお, 文レベルでの等位接続については第 4 節で取り上げる。

注)

1. apenas がどのような種類の副詞に分類されるのか、また副詞の各下位カテゴリーの性質について掘り下げた記述がないようである。RAE(1994: 129)は方法の副詞、否定の副詞など伝統的な呼称による7種の副詞区分を設けているが、apenas は言及されない。否定の副詞、adverbios de negación には no, tampoco, nada, nunca, jamás が含まれている。

従来、多くの辞書でも、この点は明確でなく語義・解説ともに素っ気ないのであった。María Moliner: Diccionario de Uso del Español を例に取ると、casi no の語義を与えて、否定文で動詞後に置かれ、肯定文では前に置かれると簡単に済ませている。No le he visto apenas. Apenas llega a la mesa. の2例文をあげている。特に apenas 自身を否定要素として決めつけるのを避けたのは賢明な姿勢と評価できるが、これだけだと冒頭の用例、つまり no+動詞+apenas がもっとも基本的な語順で、“否定文”として用いるのが代表的な使い方だというも誤解を招く懸念をはらんでいる。

辞書項目としてもっとも充実した語義区分と説明、さらに現代語からの豊富な例文が提供されているのは、より最近の Diccionario SALAMANCA de la lengua española, Santillana, S.A. 1996 である。

2. solamente, sólo に近い、「ホセはラテン語だけは知っていた」の解釈において、「否定」が全く関与しないと主張するつもりはないが、少なくとも saber el latín の部分是否定されていないと考える。

3. 否定辞 no 及び否定語を表す。ただし、apenas V neg の構造では neg は no でないのが通常である。下記のような事例が見つかったが、この apenas はここで考察している表1のタイプIではなく、むしろIIに属するものと見なされる。casi no 「ほとんど…ない」の意味ではなく、「僅か5% (の応募者) のみがクリアしない」と解釈される。

Los aspirantes deberán pasar unas sencillas pruebas físicas - apenas el 5% no las supera, que incluyen una carrera de 50 metros en pista en un tiempo igual o inferior a 8,6 segundos y otra de un kilómetro, a realizar en un tiempo no superior a 4,5 minutos.
< MN (1996/05/19: NACIONAL)

4. neg A sino B 構文において、逆にB要素は否定であり得ないことになる。実は、このBの環境にも apenas は出現し得る：

i) No estaba unido a su madre por sentimentalismos, sino apenas por algunas rutinas compartidas y por una tradición de honor sacada de cuentos edificantes sobre hijos abnegados... < PI(1991:68)

ii) ...la importancia de la muestra radica en que en México no existe un cuadro original del autor, sino apenas una copia de “La crucifixión de San Pedro”, de autor desconocido,... < LT(1998/40)

言い換えれば、sino に後続するこれらの表現は「肯定的」な性質を持つことを示していて、apenas が否定作用を持たない証拠となる。もっとも、上記はタイプIIに分類されるべきであり、当初よりこの種の用法は明らかに“非否定的”なものとして本稿の対象外としている。

(1999.01.08 未完)